



内藤 とし子 議員

高浜市公共施設総合管理計画 について (図書館について)

問 高浜市公共施設総合管理計画総括はいつ行か。

答 当初5年間の事業等、議会に説明している。40年の長期ビジョンである。

問 いちごプラザや高取幼稚園跡地はどうするのか。

答 いちごプラザは運営者からどこがふさわしいか意見を頂いている。高取幼稚園跡地は地元団体が考えを持っているとのことだが、具体的になく解体・譲渡の予定。

問 図書館の移転案が出された。図書館法では人間は情報、知識を得ることによって成長し、生活を維持していくことができるもの。また、文化的な潤いのある生活を営む生活の権利を有するとされている。図書館の蔵書冊数は現在8万冊。それがプランでは、1.いきいき広場案8,600冊、2.かわら美術館案14,000冊、3.2つの併用案17,000冊となる。今でも基準冊数は70%、延床面積は基準面積の25%。環境面

などふさわしくないと考えるが。

答 最近の文化庁の図書館をめぐる動きは、電子データ化が進み、ハードをめぐる考え方は機能を受け入れる館をどう考えるかで、市のコンセプトは大人は自己研鑽のため居心地の良いところ、幼児は絵本を楽しむ空間、児童はワイワイガヤガヤ集まると考えており追求していく。

問 コロナで市民に意見を聞けずというが、高浜小学校に複合化しない計画に代わった時点で、市民に意見を聞けなかったのか。一部の利用者だけでは市民の意向はつかめられない。まちづくりも重要と考えるが、図書館は市民にどうするといいいのか意見を聞くと、高浜分院が空いているのだから、そこを利用するとよいという意見が多くを占める。高浜豊田病院の補助金から分院の解体費を引いて、高浜市が運営していく方法で利用していけば、図書館としてだけでなく他の施設も複合化でき、市も活性化できると考えるがどのように考えるか。

答 刈谷豊田総合病院旧高浜分院は民間の施設であり、市が図書館として利用する考えはない。1月1日号より広報で図書館の連載を行い市民の皆さんに考えていただく。



神谷 直子 議員

教諭の働き方改革について

問 文部科学省から部活動改革が示された。考え方は。

答 文部科学省からの方針は、1.休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築する。2.休日において部活動を地域の活動として実施できる環境を整える。

3.令和5年度から休日の部活動を段階的に地域に移行していく。とあり部活動改革の方向性を決定していきたい。

問 GIGAスクール構想で、県内の自治体よりいち早く1人1台タブレットを導入し、各教室に電子黒板の配備が完了。GIGA スクール構想が働き方改革につながるか。

答 授業準備の負担軽減、教材のデータ共有、授業の効率化、オンラインの研修、会議の実施により、働き方改革につながると捉えている。

子ども達を取り巻く食の環境について

問 「食育について」平成17年に食育基本法が

制定され、子どもを中心に展開。今後は。

答 こども食育ガイドラインにあるように積み重ねたノウハウを活かし継続的に実施する。

問 「給食について」近隣市ではセンター方式を導入。高浜市は自校式で給食を提供。今後の大規模改修工事時の対応は。

答 給食調理室を設置するには、学校給食衛生管理基準で現在の建物の改修だけでは、満たさない。大規模改修に合わせ、敷地内に建てる。

手作りの温かい食事・調理人への感謝の気持ち・栄養教諭が意見を反映させやすいなど、子ども達にメリットのある自校式を守る。

問 「こども食堂について」経緯と支援は。

答 平成27年より生活困窮家庭の子どもを対象に学習支援事業を開始し、栄養バランスのとれた食事が必要であると考え、こども食堂を開始。市内の15団体が協力。支援は、「こども食堂支援基金」を設立し、寄付金を募って、そこからボランティア団体に奨励金で対応。

問 学習支援事業以外でのこども食堂は。

答 南部まちづくり協議会が「すこやかサタデー」を立ち上げ、夕食支援をしている。他の団体が開設するなら支援していきたい。